

2022 年度

事 業 計 画 書

収 支 予 算 書

2022 年 3 月 14 日

公益財団法人水産無脊椎動物研究所

2022 年度 事業計画書

基本方針

当財団の事業は、水産無脊椎動物の研究者を「助ける」事業、研究情報を収集して活用をはかる「集める」事業、水産無脊椎動物の情報を「広める」普及啓発事業で成り立っている。今年度もこれらの3事業を通じて、水産無脊椎動物に関する研究の進展、及び水産資源の開発や利用推進に寄与できるよう活動していきたい。

1. 「助ける」研究助成事業

助成事業は1988年から始めて34年目を迎える。近年は遺伝子研究など、より実利的な課題や研究テーマに偏る傾向にあるが、当財団としては水産無脊椎動物分野における地道な基礎的研究への応援を中心に、助成事業を推進していくこととしている。

2022年度の課題募集については、前年より、個別研究は2件増加し50課題、育成研究は9件減少し20課題（合計70課題）の応募があった。育成研究は前年、平均より10件ほど増加したが、今年は例年通りの応募数となった。その中から、個別研究10課題、育成研究4課題を専門委員の審査により採択した。

広報活動について、引き続きメーリングリストや学会での広報を行うとともに、財団Webサイト、TwitterやFacebookでの発信、当該分野の人脈ネットワークとの交流に努めながら認知を広め、同時に、当研究助成の意義を明確にしていくことで、更なる応募数の増加と助成事業の拡大を図る。高校生等、現状より若年層からの応募も期待できる応募形式の開発や広報ルートの開拓にも取り組んでいきたい。

2. 「集める」研究情報・資料の収集、交換図書、学会の聴講

(1) 軟体動物後鰓類(ウミウシ)の研究情報と画像の収集に努める。

長年、継続してきた後鰓類の研究情報と画像の収集に関しては、過去論文等に発表されたものは2020年度で収集整理が完了した。引き続き新たに発表されたものに関して継続して収集を進めるとともに、これまでに収集した後鰓類の情報活用のため、サイト等での活用方法を検討する。

(2) 資料・論文の収集と保管

無脊椎動物に関する図書・図鑑を増やし、発表された論文やその情報を収集・保管し、利用を図る。

関東周辺における海産無脊椎動物の出現・分布状況を調査し、情報を収集する。特に後鰓類の分布情報を文献および野外調査にて重点的に収集する。本年度はまずリスト作りと情報収集に努める。また、2019年度よりミュージアムパーク茨城県自然博物館が実施している総合調査研究の調査員として参加しており、同博物館と共同研究を行う。この調査・研究では茨城県における海産動物の情報を収集し、同博物館の出版物への執筆や、特筆すべきものに

については論文を発表する予定である。

(3) 学会の聴講

引き続き新型コロナウイルスの影響により、オンライン開催が予定されている学会、シンポジウムや研究会もあるため、積極的に参加する。学会は、例年どおり日本貝類学会、日本動物学会、日本動物分類学会、日本甲殻類学会の大会に参加予定である。また、関連したシンポジウム等があれば参加して、財団のネットワーク拡大にもつなげていく。収集した新しい研究情報のうち、一般の人にも広めるべきと考えられる内容は研究者に「うみうし通信」への掲載を依頼する。

3. 「広める」普及啓発事業

(1) 広報誌「うみうし通信」の発行

「うみうし通信」は当財団の広報誌であり、広く水産無脊椎動物についての情報を掲載する。また、助成課題の研究報告の中で貴重な研究情報があれば掲載する。今年度も No. 115 から No. 118 号の 4 号を発行する。

(2) 「うみうしくらぶ」会員の維持と発展

会員は「うみうし通信」の定期購読者である。内外のイベントなどで「うみうし通信」の広報活動を行うことにより、新規会員・読者を開拓する。近年、小学生を含む学生の入会も増えているため、若手会員が参加できるようなイベントも企画する。

(3) 子供向け及び「うみうしくらぶ」会員向けのイベントを実施する。

新型コロナウイルス感染症の影響により 2 年連続で実施しなかったが、今年度は参加人数を例年より減らすなど、感染防止に留意して、実施していく。

① 子供を対象とした海の生物観察会

「第 14 回 親子で楽しむ海の生き物わくわくウォッチング」を従来通り、神奈川県観音崎自然博物館を利用し、5 月 21 日(土)に開催する。

② 中学生以上を対象とした観察会

宿泊をとまなう磯の生物勉強会は休止とし、それに代るイベントとして、6 月 18 日(土)横須賀市自然・人文博物館の天神島臨海自然教育園(神奈川県横須賀市佐島)にて、日帰りの大人向けの観察会「ウミウシの観察」を行う。

(4) 財団 Web サイト (rimi.or.jp) の充実と交流ネットワークの拡大への取り組み

① 財団公告メディアとして、財団の情報公開は迅速かつ正確に行う。

また研究助成課題の募集と課題の決定は、ここで公表する。

② 水産無脊椎動物の理解を助けるため、引き続き水産無脊椎動物図鑑の拡充を推進する。より特徴の分かる写真を追加し、分類群名の変更など、近年

の研究情報も反映させていく。

③「うみうし通信」の過去記事の公開化を進め、より多くの一般の方に、水棲の無脊椎動物について知ってもらいきっかけづくりを推進する。

④財団周年シンポジウムや学会で広がった若手研究者との交流や SNS を活用しながら、地道に財団の存在認知や交流ハブになるよう進めていく。

(5) 生物分布情報の活用

財団でこれまでに収集している画像や、イベントの際に収集できた種の分布情報は、生物多様性情報の重要なデータとなりうる。海洋研究開発機構(JAMSTEC)のデータベース(ORBIS)へのデータ提供を継続し、生物情報の登録を進め調査・研究に活用いただく。今年度は、研究者に依頼して画像の整理と同定を進めた棘皮動物について登録を進める。

上記のように、今年度も引き続き、水産無脊椎動物の研究進展に寄与できるよう「助ける」「集める」「広める」事業を着実に推進していきます。

なお、そのためにも、一昨年度オープンした寄附募集サイトの広報をさらに強化し、事業継続性のための財務基盤充実に結び付くよう取り組んでいきます。

(<https://www.rimi.or.jp/support/>)

以上

2022年度収支予算書

2022年4月1日より2023年3月31日まで

(単位:円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	26,244	29,160	△ 2,916
基本財産受取配当金	11,500,000	9,750,000	1,750,000
受取年会費	500,000	500,000	0
イベント収入	34,000	50,000	△ 16,000
受取寄付金	900,000	300,000	600,000
雑収入	20,000	20,000	0
経常収益計	12,980,244	10,649,160	2,331,084
(2) 経常費用			
① 事業費	27,469,844	28,367,728	△ 897,884
給料手当	5,040,000	4,860,000	180,000
臨時雇用賃金	850,000	950,000	△ 100,000
退職給付費用	436,800	300,000	136,800
厚生費	811,444	930,000	△ 118,556
会議費	200,000	500,000	△ 300,000
旅費交通費	200,000	620,000	△ 420,000
通信運搬費	510,000	500,000	10,000
消耗什器備品費	200,000	50,000	150,000
消耗品費	300,000	250,000	50,000
印刷製本費	1,056,000	1,600,000	△ 544,000
賃借料	1,717,728	1,717,728	0
諸謝金	400,000	500,000	△ 100,000
支払助成金	15,000,000	15,000,000	0
業務委託費	400,000	400,000	0
減価償却費	217,872	90,000	127,872
雑費	130,000	100,000	30,000
② 管理費	8,086,000	8,253,000	△ 167,000
給料手当	4,344,000	4,344,000	0
厚生費	450,000	730,000	△ 280,000
会議費	200,000	100,000	100,000
旅費交通費	100,000	100,000	0
通信運搬費	35,000	42,000	△ 7,000
消耗什器備品費	100,000	30,000	70,000
消耗品費	60,000	50,000	10,000
水道光熱費	90,000	95,000	△ 5,000
賃借料	1,500,000	1,500,000	0
業務委託費	1,150,000	1,100,000	50,000
租税公課	2,000	2,000	0
減価償却費	0	110,000	△ 110,000
雑費	55,000	50,000	5,000
経常費用計	35,555,844	36,620,728	△ 1,064,884
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 22,575,600	△ 25,971,568	3,395,968
基本財産評価損等	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 22,575,600	△ 25,971,568	3,395,968
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 22,575,600	△ 25,971,568	3,395,968
一般正味財産期首残高	637,430,204	663,401,772	△ 25,971,568
一般正味財産期末残高	614,854,604	637,430,204	△ 22,575,600
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金への振替額	0	0	0
指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	614,854,604	637,430,204	△ 22,575,600

収支予算書内訳表

2022年4月1日 から 2023年3月31日まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
	公1		
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	26,244	0	26,244
基本財産受取配当金	11,500,000	0	11,500,000
受取年会費	500,000	0	500,000
イベント収入	34,000	0	34,000
受取寄付金	900,000	0	900,000
雑収入	20,000	0	20,000
経常収益計	12,980,244	0	12,980,244
(2) 経常費用			
事業費	27,469,844		27,469,844
給料手当	5,040,000		5,040,000
臨時雇賃金	850,000		850,000
退職給付費用	436,800		436,800
厚生費	811,444		811,444
会議費	200,000		200,000
旅費交通費	200,000		200,000
通信運搬費	510,000		510,000
消耗什器備品費	200,000		200,000
消耗品費	300,000		300,000
印刷製本費	1,056,000		1,056,000
賃借料	1,717,728		1,717,728
諸謝金	400,000		400,000
支払助成金	15,000,000		15,000,000
業務委託費	400,000		400,000
減価償却費	217,872		217,872
雑費	130,000		130,000
管理費		8,086,000	8,086,000
給料手当		4,344,000	4,344,000
厚生費		450,000	450,000
会議費		200,000	200,000
旅費交通費		100,000	100,000
通信運搬費		35,000	35,000
消耗什器備品費		100,000	100,000
消耗品費		60,000	60,000
水道光熱費		90,000	90,000
賃借料		1,500,000	1,500,000
業務委託費		1,150,000	1,150,000
租税公課		2,000	2,000
雑費		55,000	55,000
経常費用計	27,469,844	8,086,000	35,555,844
基本財産受贈益			
基本財産評価損益			
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 14,489,600	△ 8,086,000	△ 22,575,600
当期経常増減額	△ 14,489,600	△ 8,086,000	△ 22,575,600
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
(2) 経常外費用			
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 14,489,600	△ 8,086,000	△ 22,575,600
一般正味財産期首残高			637,430,204
一般正味財産期末残高			614,854,604
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金への振替額	0	0	0
指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	0	0	614,854,604